

”成績の上がる復習法”というのがある

▶ 2023.9.6(水)

ということは、”成績の上がらない復習法”というのものもあることになります。

確実に成績の上がらない勉強法

典型例を紹介しましょう。

問題集の問題を前から順に解きます。

- ・ 解けないものを除いて、解いた問題の答え合わせをします。

答えが合ったら赤まるをつけます。

答えが解答と合わなかったら、解答の説明を読み、”そうか”と納得できればその解答をノートに写し、赤まるをつけます。

- ・ 解けなかった問題は、解答を見ます。読んで、わかればそれを写し、赤まるをつけます。解答書の説明が理解できないときは、友だちに聞いたり、塾で教えてもらいます。納得できたら、それをノートに写して赤まるをつけます。

この後ですか？

いや、これでおしまいです。

もう、赤まるのついた問題は2度と解きません。

問題集に解答を書きこんでしまっているのですから。

こんな勉強法では成績が上がるわけがありません。

勉強法については、次のような“定理”があります。

「一度まちがえた問題は二度まちがえる。」

だから、こんな勉強をしている限り、例え同じ問題がテストに出ても、まちがえた問題はまた間違えますから、成績はいつこうにあがりません。

以上のような現実をふまえてのお話になります…

成績の上がる復習法

「テストの点数がいいときがあったり、悪いときがあったりで波がある」という生徒が多く見受けられます。なぜ、こういうことが起こるのでしょうか。その原因は、それほど複雑ではないのですが、実は、この”波”を直すことはそう易しい作業ではありません。

テストの点数に”波”があるのは、要するに、分かっていないところがあるからなのです。その分かっていないところがテストに出れば点数が下がり、出なければ点数が上がります。だから、その対策も簡単です。要するに、分からないところをなくすればいいわけです。

な～んだ、そんなことか。そんなことは、だれでも知っているでしょうが…。
はい、だれでも知っています。しかし、だれもしていない学習法です。
しないのではなく、できないのです。

”何が分かっていないか”が分からない

そもそも「どんなことが分かっていないのか」が分かりません。

”方程式の文章題が解けない”ではダメです。

そんな漠然とした情報からは、どんな復習をすればいいのかについての学習計画や教材を準備できないからです。

”方程式の文章題で、食塩水の濃度の問題が解けないのです”。

これですと、では、食塩水の濃度の問題を復習すればよい、ということがわかります。

しかし、食塩水の濃度の問題にも、次の4つのタイプの問題があります。

- ①食塩水+食塩水
- ②食塩水+食塩
- ③食塩水+水（食塩水-水/蒸発の問題）
- ④一部を取り出して混ぜる問題

現実には、ふつうの生徒は、どのタイプの問題が解けないのは分かりません。

もし、④のタイプの問題が苦手と分かったとしましょう。

そのときは、どんな教材を使って復習しますか。

問題集なんか、食塩水の問題は1、2題しか載っていませんよ。しかも、突然、②食塩水+食塩の問題とか、③食塩水+水の蒸発の問題などがでてきます。

①一般的な問題が載っていない問題集もあります。

①～④の順に、体系的に問題が配列されている問題集など皆無です。

あなたは、問題集から復習すべき問題を選べますか。

さらに、もしその問題の解き方が理解できなかつたらどうしますか。

このように、具体的な復習方法はというと、かなり難しいのです。

だから、どうすればよいのかは分かっているのですが、何もできないのが実情なのです。

だから、数学ができる人はできるできるし、できない人はいつまでもできないのです。

数学をできるようにする指導法

しかし、ある日突然数学でできるようになる人が現れることも、また事実です。

彼らはどのような学習をしたのでしょうか。

今回は、その一端を紹介しましょう。

1 まず、何が分かっていないかを、具体的に調べなければなりません。

”具体的”というのは、その情報で、どんな問題を学習すればいいのかが決定することができる、という意味です。

これは生徒や素人の先生にはできません。

その分野全体の体系的な知識や教材が必要だからです。

食塩水の問題であれば、上の①→②→③→④のような4つの解法タイプのどの問題が解けな

いかをチェックできる体系的に編集された教材が必要です。

この体系的な教材を前から順に解かせることで、”分からないと思っている”ことではなく”事実として分かっていない”ところを見つけ出すことができます。

この作業は、病気するとき、”MRI”で患部を見つけ出す検査と同じことです。

分かっていると思っても、実は分かっていないことはたくさんあります。

胃が痛いと思っていたのに、検査したら十二指腸潰瘍であったことはよくあります。

- 次に、分からないを分かるにするための”教材”が必要です。

これは、病気を治すには、その病気を治す”薬”が必要であると同じことです。

実は、1の体系的な教材による”検査”が、同時に”治療”をしていることになります。

解けない問題が見つかったら、その問題を解けるにして、その直後に同じ考え方で解ける問題を解かせ、解けるようになったかを検査し、1週間くらい置いてもう1回同じ問題を解かせることで、解けない問題をあぶり出し、同時に解けるようにしてしまふことができます。

このような教材を使って学習させることで、分からないを確実に分かるに変えていけます。

当然、その分だけ学力は確実にアップしているはずです。

どんな塾で指導を受けたらいいか

生徒ひとりではできない作業であることがわかりいただけたことと思います。

そこで、どこかの専門家の指導を受けなければなりません。

1. 分からないところはひとりひとりみな違うわけで、どうしても個人的に指導を受けなければなりません。だから、当然学校で指導を受けることもできないし、また学校のような一斉指導をしている塾で指導を受けることもできません。
2. では、個人指導というなら家庭教師か、となるが家庭教師は所詮はアルバイトで素人だから指導技術に不安だという声も聞きます。というより、分からないを見つけ、分かるにする”体系的な教材”をもっていません。
3. そこで、このような弱点克服指導のプロセス全体の流れを知悉している教師がいて、分からないをあぶり出し、それを分かるにする教材をもっている個人指導の塾で復習指導を受けるのが、最も効果の出る復習法といえます。

数専ゼミの指導

個別指導51年の歴史をもつ数専ゼミの場合：

1. 在籍学年に関係なく、自分の勉強をしたい内容を学習できます。
何を学習したらいいのかわからない場合は、学校のテストを持参してください。数専ゼミで学力の到達度を分析し、勉強すべき内容をアドバイスします。
また、上で紹介したような”分からない”を見つけ出し、”分かるにする”体系的教材を使った個別指導であることは、いうにおよびません。

2. 週に何コマ(1コマ90分の授業), 何曜日に, どの時間帯で指導を受けるかは, 自由に選択できます。

ちなみに, 数専ゼミの時間割は次のようになっております。

土曜日 A組(4時30分~6時), B組(6時~7時30分), C組(7時30分~9時)

日曜日 A組(4時30分~6時), B組(6時~7時30分), C組(7時30分~9時)

月曜日 A組(4時30分~6時), B組(6時~7時30分), C組(7時30分~9時)

火曜日 A組(4時30分~6時), B組(6時~7時30分), C組(7時30分~9時)

個別指導ですので, 曜日の変更と振替授業, 時間の変更とはいつでも可能です。

水, 木, 金は授業はお休みですが, FAXやメールでの質問指導はっております。

質問指導は無料です。

”科学的な”復習指導の数学専門塾

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp